



91

古刹と仏像の宝庫 大陸の玄関口 小浜

小浜市門前 など

奈良・平安の時代、大陸文化伝来の玄関口であった小浜には多くの神社仏閣が建立されたという。今も残る古刹や古社を訪ねると、あらためてこの地の歴史の深さを知らされる。



明通寺の三重塔（国宝）①

古来より大陸の玄関口として栄え、仏教文化の伝来ルートであった小浜市には、数多くの古刹が残されています。

本堂と三重塔が国宝の明通寺、名勝となっている萬徳寺の庭園、重要文化財となっている羽賀寺の十一面観音立像や 妙楽寺の千手観音立像など、仏教の歴史の重みを感じさせる貴重な寺や仏像を見ることができます。

明通寺の庭園には「蝉鳴けり 泉湧くより 静かにて」と詠んだ俳人「水原 秋 桜子」の句碑が見られます。



明通寺の本堂（国宝）



明通寺の庭園と水原 秋 桜子の句碑



萬徳寺の庭園（国名勝）



羽賀寺本堂（国重文）②

萬徳寺の庭園は、書院前に敷き詰められた白砂と、その奥にある傾斜面に岩を配した約 300 m の枯山水とが調和して、手付かずの自然とは異なった趣が感じられます。

羽賀寺の十一面観音立像は、永い間秘仏であったことから、染色が残っています。また、妙楽寺の千手観音立像は、腕の間に小さい腕を付け足して、千本の腕を演出しています。



千手観音立像（国重文）



十一面観音立像（国重文）



写真①、②は小浜市提供



若狭から奈良への歴史大河 お水送り

小浜市下根来 など

鵜の瀬で注がれた「お香水」は地下を通り十日後に奈良東大寺の若狭井に湧き出るとい
う。奈良時代から千二百有余年、一度も休むことなく続いている「お水送り」、歴史その
ものを伝えているようだ。



お水送りの風景①



鵜の瀬（名水百選）



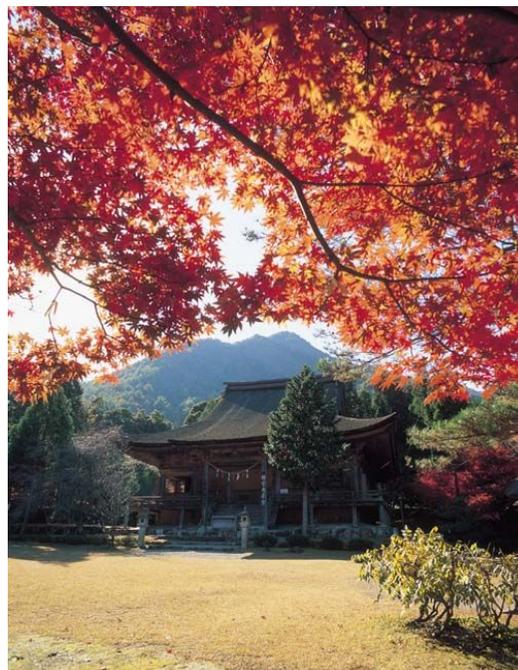
神宮寺の井戸

神事「お水送り」は約1200年の歴史があり、ほら貝が響き、松明が揺れる河原
で、白装束の僧たちが「お香水」を鵜の瀬に注ぐ幻想的な伝統行事です。

3月2日の夜に、神宮寺の井戸から汲み上げられた「お香水」を白装束の僧たちが
2キロ上流の「鵜の瀬」に運び、遠敷川に注ぎます。注がれた水は10日間かけて、
奈良・東大寺二月堂の若狭井に届くと伝えられています。



神宮寺の参道②



神宮寺本堂（国重文）

「お水送り」を受けて東大寺では
3月12日に若狭井から「お香水」
を汲み上げる「お水取り」が行われ、
奈良では、「お水取り」は春の到来を
告げる神事とされています。

これら神事は若狭の遠敷明神が漁
に夢になって東大寺二月堂建立の
際の修二会に遅れ、お詫びに香水を
おくる約束をしたとの伝説が由来と
されています。





海が舞台の炎の祭 おおがせ 大火勢

ほんごう おおしま
おおい町本郷地区、大島地区

宵闇のスーパー大火勢の華やかな灯りが、硯の海が広がる入江を照らし、暁に海に横たわる大島半島を望む。おおいの海の恵みを実感する。



おおがせ
スーパー大火勢

おおい町の大島半島と陸の間の青戸入江の湾内で毎年8月上旬に開催される「若狭おおいのスーパー大火勢」は、真夏の夜に行われる勇壮・豪快な火祭り。300年余りの伝統を持つ福谷の大火勢は県無形民俗文化財に指定されています。

あたりが暗くなった頃、松明行列が幻想的な太鼓と笛の音にあわせて火の河となって進みはじめます。続いて「悠久の炎」が大火勢に採火されると、重さ300貫、高さ60尺（約20m）もの燃えさかるスーパー大火勢を若衆が「ヤッサー、ヤッサー」の勇ましい掛け声に合わせて立ち上げ、舞い散る火の粉を振り払いながら回転させます。闇夜に浮かび上がる炎の輪は、とても力強く幻想的な風景です。

この青戸入江に架かる青戸の大橋（延長743m）は福井県でもっとも長い橋であり、大橋を背景にした青戸入江は絶景で、幻想的な静かな海が広がっています。



あおとのいりえ
青戸入江に架かる青戸の大橋



そでがはま
袖ヶ浜海水浴場①

おおい町大島半島は、若狭湾の海の恵みを多く感じることが出来ます。
そでがはま
袖ヶ浜海水浴場は、小浜湾を望む大島半島沿いの絶好のロケーションで、海が青々としており、綺麗な砂浜が広がっています。

大島の各集落で正月に行われる「はなんとう」は、わらを寄って作った蛇縄に勧請板やキツタの枝葉などをぶら下げ、道を横切って張り巡らします。このほか、大島の秋祭りなど、海の恵みのもとで季節を感じさせる行事を目にすることができます。

また、毎年7月下旬の土・日曜には、本郷地区で「かわそさん」の呼び名で親しまれる水無月祭が開催され、神輿が2日かけて海の中、町の中を練り歩きます。



はたむら
大島地区（畑村）の蛇縄②



みなづきまつり
本郷地区の水無月祭③



写真①～③はおおい町提供



みずかみ さぶりがわ 水上文学のふるさと 佐分利川

おおい町岡田など

佐分利川のほとりにあるふるさとの香り漂う文学と絵画の茅舎は、私たちに懐かしさを運んでくれる。風の音の中で、建物が呼吸しているその息吹を感じる。



佐分利川①

旧大飯町の中心を流れる佐分利川。佐分利川沿いに広がる水田と囲まれた山々がのどかな風景を醸し出しています。

川沿いには8 kmにも及ぶ桜並木が連続し、地域の人々に安らぎを与える存在となっています。



8kmにおよぶ桜並木②



佐分利川の桜③



若州一滴文庫④



くるま椅子劇場



若州一滴文庫 遠景



写真①～④はおおい町提供

また、佐分利川沿いにある岡田地区には、郷土の作家水上 勉氏の蔵書や絵画、生原稿などを収蔵してある若州一滴文庫があります。

茅葺の和風建築や庭園の落ち着いた風情の中で幻想的な竹人形や水上勉氏の文学に触れると、竹が生み出す独特の世界に思わずひきこまれます。

若狭の風土と水上氏の人生が根付いた水上文学の世界とともに、ひっそりとしたたたずまいのなか、安らぎが感じられる場所となっています。

敷地内の「くるま椅子劇場」は、背後の大きな開口部とその後ろに広がる竹やぶが、内外一体となって効果を生み出す、他に類のない舞台となっています。



星降る村 安倍晴明ゆかりの 名田庄

のたおい おいさこ しも
おい町名田庄納田終、老左近、下など

山を越えると、懐かしさと温もりにあふれた集落が広がっている。名田庄は、安倍晴明の暦とともに、私たちの心に山里の原風景を伝えてくれる。



名田庄口坂本地区の集落①

小浜湾に注ぐ南川の上流に沿って建ち並ぶ名田庄の集落。平安時代の有名な陰陽家・安倍晴明を始祖とする土御門家ゆかりの地として知られています。

集落の中には昔ながらの茅葺き屋根も見え、誰もが懐かしさを覚える山里の風景が広がっています。名田庄の恵まれた自然環境と調和した風景は、訪れた人々を落ち着いた気分にさせてくれます。

また、名田庄納田終地区にある薬師堂は、元和3年（1617）年、江戸時代初期に建築されたとみられる県内有数の古建築のひとつです。



名田庄老左近地区の茅葺民家②



納田終薬師堂（県文化財）③



暦会館④

納田終にある暦会館には、土御門家の人達がここ名田庄にすみ、都の朝廷や将軍家のことを占ったり、暦を作ったりしていた史蹟や史料などを展示、保存しています。

そして、南川を遡ったところには野鹿の滝があり、落差 30mの水量豊富で、勇壮かつ迫力満点な風景です。



野鹿の滝

この滝には、その昔、戦に敗れて落ち延びようとした安倍家の別当石王丸が、滝壺から光を放つ薬師如来像に逃げ道を教示されたという不思議な伝説が残されています。

下地区の苅田比売神社では、毎年10月上旬の秋の例祭において、江戸時代の安永4（1775）年に伊勢の御師職幸吉之丞から伝授されて今に伝えられる下村の獅子舞が行われます。



下村の獅子舞（県民俗文化財）⑤





瓦屋根が連なる 高浜・旧丹後街道

高浜町和田 など

若狭和田から高浜まで続く海岸の広い砂浜ときらめく海。夕暮れ近くになると、オレンジ色の空、金色の海、そして薄紫色の青葉山へと色彩を変える。



安土山からの眺望



和田の海岸風景①



若宮の海岸風景②

高浜町の中心部である高浜地区から和田地区にかけての旧丹後街道周辺地域は、古くは海産物の運搬や巡礼者の往来する街道でしたが、近年は海水浴客のための旅館・民宿街として発展してきました。

周辺の小高い山から見ると、白い砂浜が広がる弓なりの海岸線に昭和初期の時代を思わせる瓦葺屋根が連なる眺望景観が楽しめます。



若宮の町並み

若宮地区から本町地区にかけては町の中心繁華街となっており、2階部分が低い町屋建築などが軒を連ね、菌部地区から和田地区にかけては、細い路地と共に板壁や海鼠壁の旅館や民宿などのまちなみを見ることができます。



和田地区の細い路地

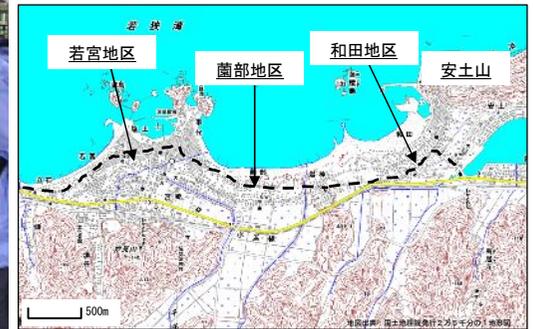


旧丹後街道の道しるべ③



地元による雛人形の展示④

毎年ひな祭りの時期に、旧丹後街道沿いの本町区を中心として、軒先に雛人形を飾る活動が行われています。多くの民家や商店で様々な雛人形を見ることができます。





あしががよしみつ 足利義満が愛でた奇勝 明鏡洞

高浜町事代

高浜のまち近くから突き出た半島全体が城山公園だ。遊歩道を進むと明鏡洞などの海食洞窟や奇岩との出会いが・・・、展望台からは優雅で美しい弧を描く海岸線が、まるで一枚の絵画を見ているようだ。



明鏡洞



妙見山から城山方面を望む^①

室町時代に築城された高浜城の跡地である城山公園には、長い年月をかけて日本海の荒波がつくりあげた「八穴の奇勝(町指定名勝)」と呼ばれる八つの大きな洞穴があり、特にその一穴である「明鏡洞」では、穴の彼方に見える水平線が美しく感じられます。かつて、室町幕府三代将軍・足利義満も訪れたと伝えられています。



城山公園



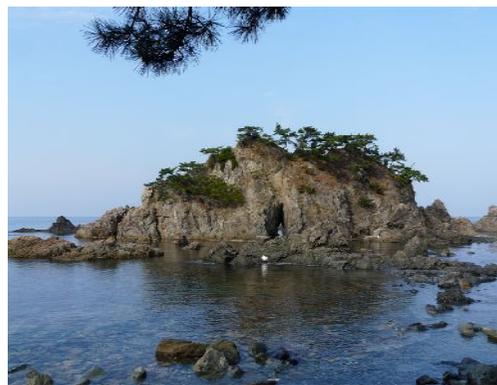
城山公園で行われる若狭たかはま漁火想^②



城山公園の桜^③

城山公園には、広大な芝生広場があり、地元民の遊び場として明鏡洞の景観とともに親しまれています。

また、「人の和によるまちづくり」をコンセプトに町民参加型の手作りイベントとして行われる「若狭たかはま漁火想」では、楽しみながら公園内が多くのキャンドルでライトアップされていきます。



八穴の一穴 乙女ヶ洞^④





海にそびえ立つ若狭富士 青葉山 あおば

高浜町高野 など

福井県と京都府にまたがり、山頂からは丹後・敦賀半島から越前岬の絶景が楽しめる。夏の登山は楽しいものになりそうだ。



あおば 青葉山全景①



青葉山から見る高浜・和田海岸②

京都府との境に若狭湾を見下ろすようにそびえる青葉山（標高 693m）。高浜町の海岸線から見える姿はなだらかな稜線が美しく、「若狭富士」と呼ばれています。

青葉山は、白山信仰の祖で8世紀の高僧・泰澄大師が白山比咩神社を分祀して開いたとされており、古くから庶民にあげられてきた信仰の山として親しまれています。



桜と青葉山③



波間から見る青葉山④

青葉山の頂上付近はごつごつとした岩場が続いており、江戸時代までは女人禁制の修験道場だったと言われています。

青葉山の中腹には山岳信仰の拠点だった真言宗寺院の中山寺があり、中山寺には33年に一度本開帳（2月3日のみ毎年開帳）される秘仏の馬頭観音坐像があります。



ばとうかんのんざそう 馬頭観音坐像（国重文）⑤



中山寺本堂（国重文）⑥





静かな海、棚田、漁村 風光明媚 内浦湾

高浜町日引 など

難波江海水浴場を過ぎて三差路を内浦方面へ進むと、やがて感動的な内浦湾のパノラマが眼前に広がる。少ない平地を利用した棚田と段々畑も自然と調和してどこか美しい。



日引の棚田（日本の棚田百選）の田植風景

内浦湾は、福井県と京都府の県境にある内湾です。外海に面した側には海蝕崖が発達し、中でも「音海断崖」は海面からの高さが260m以上に達する日本海側でも有数の断崖地形になっています。湾岸の東向き斜面には「日本の棚田百選」に認定されている「日引の棚田」があり、のどかな農村風景が見られます。

日引地区は、半農半漁の地域であり、急峻な山々、急傾斜地に開かれた約200枚の棚田、集落、漁港、養殖筏が浮かぶ海、こうした様々な要素が一つの風景を創り上げています。

地域住民は古くから棚田の保存・維持に努めており、田植え期や稲刈り期などには昔ながらの作業風景を見ることができます。



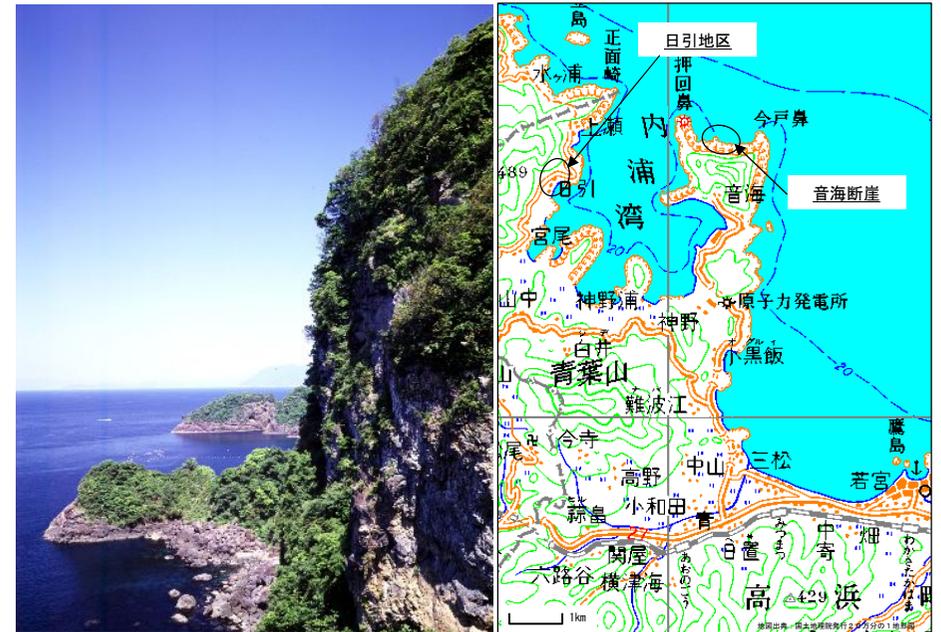
昔ながらの「はさがけ」の風景



内浦湾と日引の棚田①



漁船と棚田のある風景②



音海断崖③

写真①～③は高浜町提供



100

わかさじまんきつ

若狭路満喫 小浜線

福井県嶺南地域

小浜線は車窓が楽しみだ。東美浜からは海が、気山を過ぎると三方五湖が、上中からは北川が、小浜からは小浜湾が見える。若狭和田からの海岸線はずっと海水浴場。青葉山が間近に見えてきた。



電車の走る風景（黒河川鉄橋（敦賀市））



十村駅（大正6年開業）

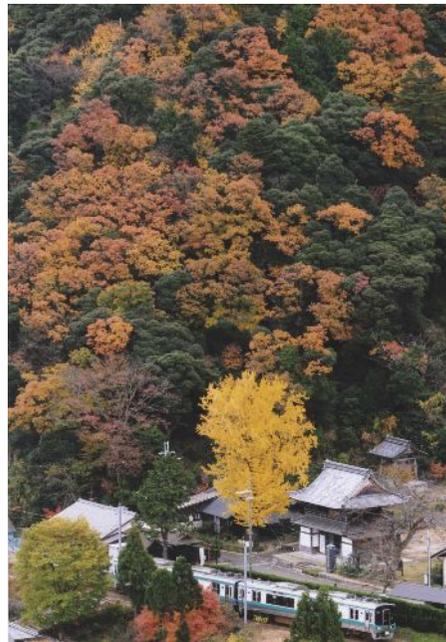


若狭本郷駅舎①



若狭高浜駅舎②

小浜線に乗ってみると、三方五湖や若狭湾の海岸線、広大な田園などの多種多様な風景を見ることができます。また、若狭町の十村駅では歴史ある駅舎、若狭本郷駅や若狭高浜駅では近代的な駅舎を見ることができます。特に若狭本郷駅は「国際花と緑の博覧会」の際に使用された「風車の駅」を移築したもので、小浜線の駅でも特に豪華な雰囲気を出しています。



紅葉と電車の風景（小浜市小浜浅間）



雪景色と電車の風景（小浜市西勢）



小浜湾と電車の風景（小浜市東勢）



田園と電車の風景（三十三間山から若狭町岩屋を望む）



花と電車の風景（美浜町郷市）



写真①はおおい町、②は高浜町提供